

ゼミナール活動における地域交流・地域貢献への取り組み

濱 口 なぎさ・江 頭 万里子・武 藤 玲 路・森 弘 行

Community exchange and regional contribution in seminar activities

Nagisa HAMAGUCHI・Mariko EGASHIRA・Ryoji MUTO・Hiroyuki MORI

キーワード：ゼミナール、少人数教育、地域交流、地域貢献

1. はじめに

生活創造学科ビジネス・医療秘書コースでは、平成27年度の学科再編に伴いカリキュラムを見直し、「卒業研究」を「ゼミナール」と改称し、科目の主題や到達目標を変更した。

「卒業研究」では、各研究室単位で自由にテーマ設定を行っていたが、専攻としての統一感が出にくい面があった。「ゼミナール」では、卒業生の9割以上が県内に就職し、将来的には地域の中

核として活躍することを期待し、「地域貢献・地域振興」に寄与する企画の立案・運営を主題とするため、「地域交流・地域貢献」を統一テーマとして設定している。

本稿では、本コースのゼミナールについて平成29年12月17日に日本インターンシップ学会九州支部第20回研究会及び第38回短期大学の将来構想に関する研究会で発表した内容を紹介する。

図1 科目の主題と到達目標

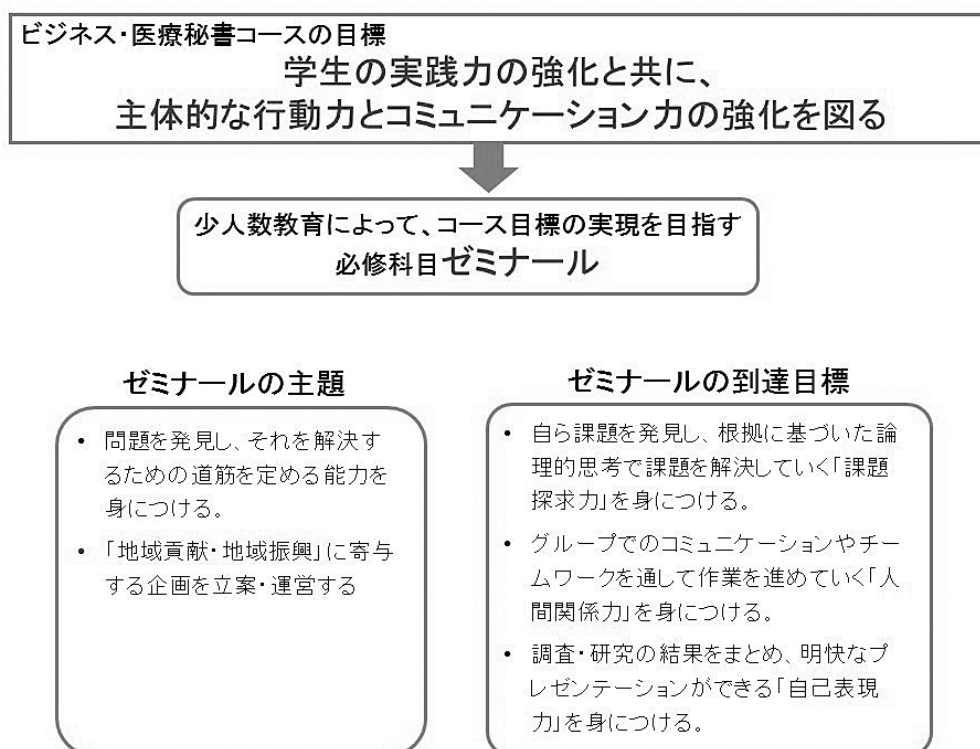
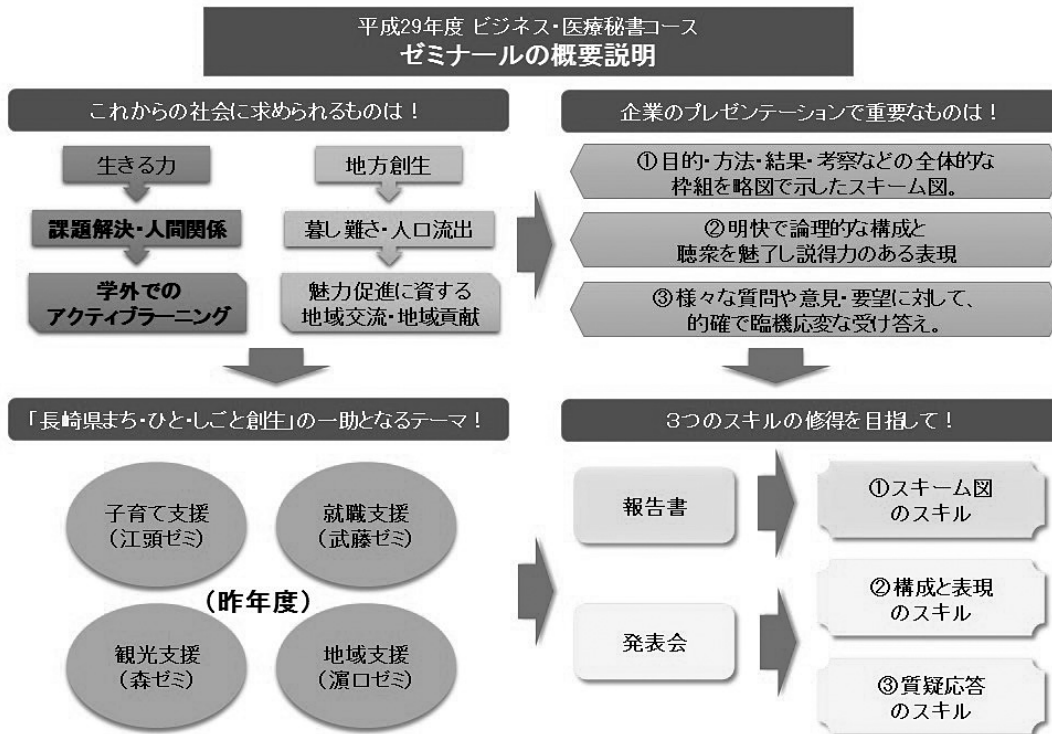


図2 ゼミナールの概要（学生ガイダンス用）



2. ゼミナールの概要

ビジネス・医療秘書コースの目標は、「学生の実践力の強化と共に、主体的な行動力とコミュニケーション力の強化を図る」と設定している。

「ゼミナール」の主題と到達目標は図1で示しているが、必修科目で全員が受講し、かつ少数人数での指導・活動を行うことから、特に「課題探究力」「人間関係力」「自己表現力」を身に付けることを到達目標と定めている。

図2は、2年生の4月にゼミナールの概要を説明するための資料である。まず「これからの社会に求められるもの」として小中学校の新学習指導要領でも核となっている「生きる力」と、現政府が掲げている「地方創生」の2つを設定した。具体的には長崎県が策定した「長崎県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一助となるテーマを設定することとし、「地域交流・地域貢献」を統一テーマと定めている。

一方、短大を卒業し就職した後に求められるスキルとして、企業でのプレゼンテーションの場を想定し、重要なものを3つを設定している。

①目的・方法・結果・考察などの全体的な枠組

みをスキーム図のような図解で説明できるスキル

②明快で論理的な構成と聴衆を魅了し説得力のある表現ができるスキル

③様々な質問や意見・要望に対して、的確で臨機応変な受け答えができるスキル

平成26年度まで実施していた卒業研究では、報告集を論文形式で作成していたが、ゼミナールでは論文形式をやめ、スキーム図（ポンチ絵）で表現することにした。学生達が自分たちの考えや活動を図解によって論理的に構成し表現することで、説得力が生まれると考えている。

最終的には、ゼミナール活動によって、学生達が地域の問題に関心を持ちその解決策を考え、報告書や発表会の資料作成、プレゼンテーションを実施することによって3つのスキルを修得し、到達目標に達することを期待している。

ゼミナールの概要と授業計画については図3のとおりである。

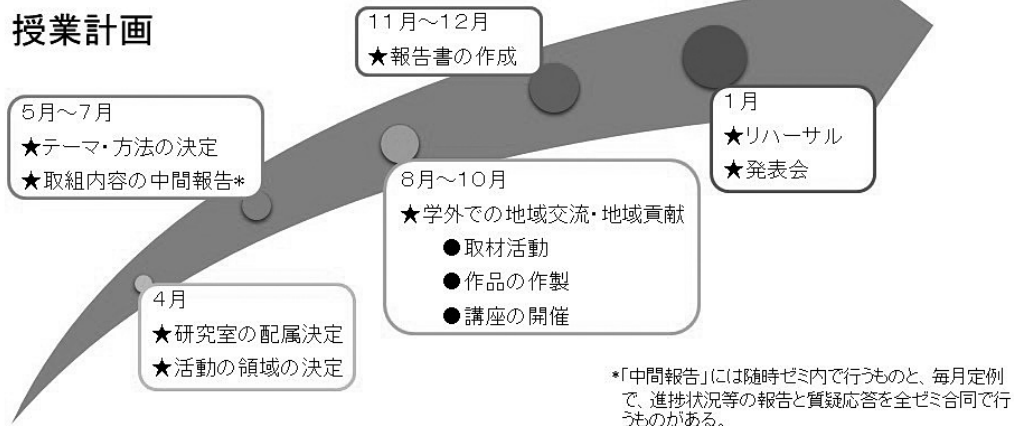
開講時期は2年次通年の30回、1週間に1回、連続して2コマ3時間の授業となっているが、授業時は各ゼミ内での連絡調整や報告を主とし、空

図3 ゼミナールの概要と授業計画

ゼミナールの概要

開講時期	2年次通年(4月～翌年2月)
週のコマ数	連続して2コマ(3時間)
年間回数	30回
配属人数	3～7人
配属方法	希望調査を基本とする

授業計画



き時間での活動を奨励している。

授業計画の5月～7月に記載している「取組内容の中間報告」については、各ゼミ内で毎回行わ

れるものの他に、毎月定例のコース全体での報告会も含まれている。報告会では進捗状況の報告だけでなく、他のゼミの学生や教員からの質疑応答

図4 過去3年間の各ゼミのテーマ

統一テーマ:「地域交流・地域貢献」

ゼミ	各年度のテーマ(2015～2017)	人数
江頭	親子マナー教室の企画・運営による子どものマナー向上への貢献	6
	地域の子どものためのマナー向上のために私達ができること	4
	小学生のマナー定着のための支援	6
濱口	高齢者の現状と私達ができる支援策	5
	人もネコも暮らしやすい地域社会～私たちにできる支援策～	4
	猫好きのための観光マップで地域活性化!	7
武藤	OG訪問リーフレットによる長崎県の就職支援	6
	ビジネス・医療秘書コースのリーフレット作成	4
	ビジネス・医療秘書コースのサブパンフレットの作成	6
森	若者向け観光リーフレット作成による地域貢献	7
	深堀エビス紹介による地域の活性化を目指して	3
	よかとかみつけた～隠れオブジェを目印に～	7

★各ゼミの交流先(昨年度)

卒業生とその勤務先、深堀地区まちづくり推進協議会、長崎の町ねこ調査隊塾元気っ子クラブ(愛宕小学校学童クラブ) など

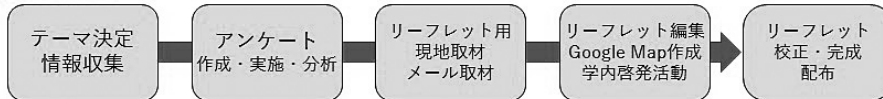
図5 報告書の各ゼミトップページの例

猫好きのための観光マップで地域活性化！

【濱口ゼミ】江口世奈、小川椎菜、久保みずき、瀬戸葉月、高尾美琴、田山芹香、伴あいり

<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 猫好きの人のために長崎の猫に関する観光情報を提供し、地域の活性化を支援する 猫を観光資源として活用するとともに、野良猫の問題にも関心を持ってもらう 	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外の方々との交流を通じて、コミュニケーション力を身につける 資料作成能力を身につける 自分が住んでいる地域社会に関心を持つようになる 作成したリーフレットを観光案内所などに置いていただく、Googleマップを公開する
<p>方法</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットや本で、猫に関する情報を収集する 看板ねこやねこグッズなど、長崎の猫が取り入れられているものを取材する 短大の学生に猫に関するアンケートをとる 調査・取材した内容をリーフレットとGoogleマップにまとめ、配布する 	<p>研究成果</p> <ul style="list-style-type: none"> リーフレットやGoogleマップの作成能力が身についた 長崎での猫を活かした観光の可能性や、長崎が抱えている殺処分などの猫問題も知ることができた。 アンケート調査結果を元に、学内でポスターによる猫の適正飼養についての啓発活動を行えた。

研究の経過



も含み、さまざまな質問や意見・要望に対して的確で臨機応変な受け答えを身に付けるための訓練も兼ねている。今年度は5回実施した。

過去3年間の各ゼミのテーマは図4の通りである。各ゼミの配属人数は年度によるばらつきはあ

るが3名～7名となっており、担当教員の指導が行き届く少人数教育が実現できている。

また、すべてのゼミにおいて学外の団体等と交流し、さまざまな地域の問題を発見し、解決策を見つけることに取り組んでいる。

図6 ゼミナールの成果物作成の例

リーフレットの立案から完成までの流れ

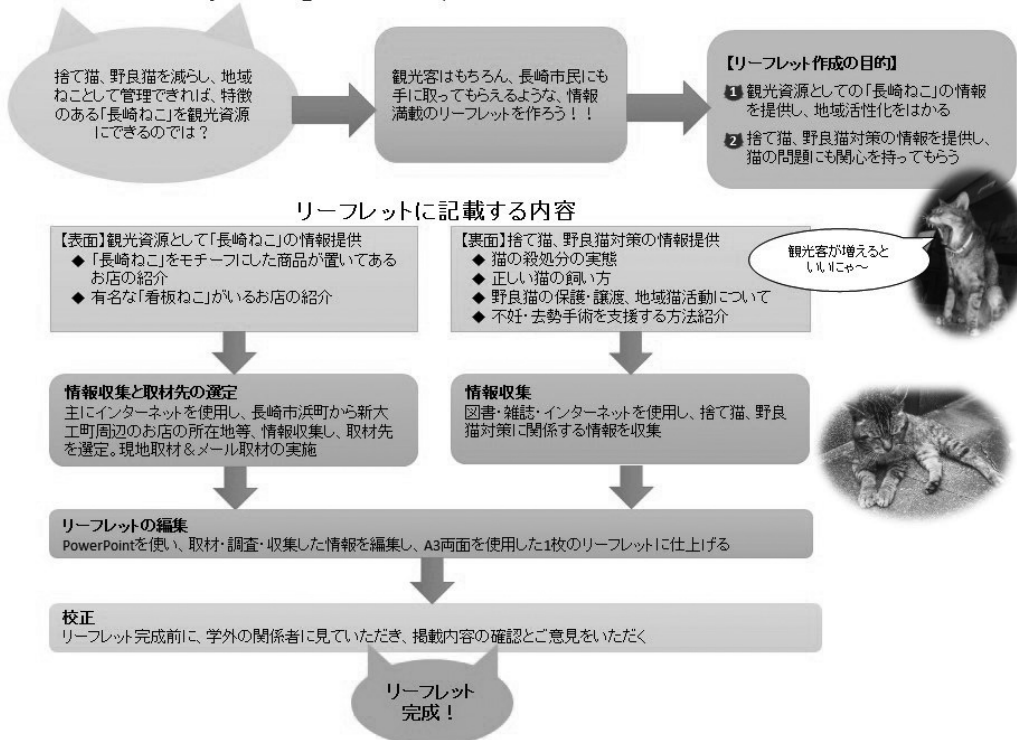


図7 ゼミナールの成果

全体的な成果

- スキーム図(ポンチ絵)等、資料作成のスキルが上達した
- プレゼンテーションの構成と表現のスキルが上達した
- 質疑応答のマナーとスキルが上達した
- 学外者との交流によって学生の視野が広がった
- 身近な地域の問題に気づき、解決策を考えるきっかけとなった
- 公開講座の実施やパンフレット作成等、学外にもアピールできる成果が得られた

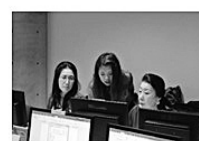
★発表会での質疑応答の場面



2年生が発表、回答
(課題解決)



1年生が質問
(課題発見)



公開講座の実施



作成したパンフレット

ゼミナールの報告書は全てスキーム図(ポンチ絵)で作成するが、各ゼミのトップページは図5の形式で統一している。

参考までに、今年度の濱口ゼミの例を紹介する。テーマは「猫好きのための観光マップで地域活性化!」とし、長崎を訪れる観光客への「長崎ねこ」の情報を提供すると共に、野良猫問題を解決するための啓発活動にも力を入れている。

また、ゼミナールの成果物としてリーフレット作成にも取り組んでいる。リーフレットの立案から完成までの流れは図6のとおりである。学生達の独りよがりにならないよう、学外の第三者(長崎の町ねこ調査隊塾)にも校正をお願いしているところである。

3. ゼミナールの成果と課題

コース全体の成果としては、図7で示した6つが挙げられる。

報告書や成果物としてのリーフレットやパンフレットを作成することで、資料作成のスキルが格段に上達している。また、学外者との交流、特に公開講座の企画・運営への取り組みでは、さまざまな年齢や社会的背景を持つ方々と接することで、

学生達の視野も広まり、コミュニケーションの取り方についても考える機会となっている。さらに、定例の報告会を実施することで、プレゼンテーションの構成と表現のスキルも上達し、同時に実施した質疑応答も効果的であった。

昨年度1月に実施した報告会では、発表者である2年生は正装で臨み、1年生にも必ず1人1回は質問するように事前指導を行った。その結果、各ゼミの報告後に活発な質疑応答が行われ、充実した報告会が実施できた。

今後の課題としては図8で示した3つが挙げられる。学生にとって「地域交流・地域貢献」の範囲でのテーマ設定は難しいため、毎年4月～5月のテーマ決定に時間を要している。また、2年次の1年間だけの取り組みでは時間的にも内容的にも不十分であり、継続や深化が難しいと感じている。

これらの課題を改善するための方策として、次年度から1年次に「プレゼミナール」を新設する案を検討中である。本学が連携協定を結んでいる長崎市や長崎新聞社の方々にもご協力いただき、1年次から「まちづくり」の観点で地域の問題に関心を持ち、課題発見と解決について学生なりの調査・分析・考察・報告を行う機会を定期的に設

図8 今後の課題と改善策

課題

- 「地域交流・地域貢献」でのテーマ設定が難しい
- 2年次の1年間だけでは、調査・研究に費やす時間が限られ不十分である
- 研究テーマへの取り組みが単年度で終わり、継続や深化が難しい

改善策(検討中)

★1年次に「プレゼミナール」を新設する

- 本学が協定を結んでいる地方公共団体や企業等と連携し、テーマ設定の前から交流を図り、「まちづくり」に関連するテーマでの調査・分析・考察・報告を行う
- 2年次の「ゼミナール」では1年次の成果を更に深化させ、学内外でアピールできるような成果物等を作成する

ける方向で実現を図りたいと考えている。

学生達が短大在学中の2年間、途切れることなく地域の方々と交流し、地域の問題に関心を持ち、その解決に貢献することで、コースの目標である「学生の実践力の強化と共に、主体的な行動力とコミュニケーション力の強化を図る」を実現していきたい。